

●水環境・生物・生態系（1） （1-D-09-1～1-D-10-2）

本セッションでは、干潟域でグリーンタイドを形成し生態系に悪影響を及ぼす海藻アオサに関する研究報告が3編、浅海生態系の保全上重要とされている海草アマモに関する研究報告が3編の計6編の発表が行われ、活発な質疑応答が交された。

1-D-09-1では、干潟域のグリーンタイド発生を軽減・抑制し、かつ干潟生物の生息に悪影響を与えない方法が詳細な数多くの調査結果と実験結果に基づいて検討された結果、干潟の地盤高を調整する方法と淡水供給を施す方法が提案された。実用化に向けた研究が少ないだけに、本研究は価値を見出せる。

1-D-10-1では、干潟上に発生するアオサを人為的に除去すればアサリの生息量が維持されること、またそのアオサの除去は住民参加により実施され、多様な主体の連携・共同による取り組みがアオサ除去には重要であることが報告された。

1-D-10-2では、環境問題となっているグリーンタイドを形成する浮遊性のアオサとくに最近我が国に進入してきたアオサが着目され、その遺伝子を用いて同定を行うとともに、その侵入種の季節的消長が報告された。アオサに関しては、侵入状況や生態学的な情報が少ないだけに、今後の研究の展開が期待される。

1-D-09-2では、生態学的価値が高く評価されるアマモが、一方では枯死期に海洋環境を悪化させることに着目し、アマモを養魚やペットの飼料として有効活用される方法が検討された。その結果、アマモの飼料としての有用性が確認されるとともにその効率的な使用法が提案され、今後の実用化が期待される。

1-D-09-3では、コアマモの生態学的な価値を示す一側面として、底生動物への餌料価値が検討された。安定同位体を用いて検討が行われた結果、コアマモ由来物の有機物が重要であることが示唆された。このような観点からの研究が少ないだけに貴重な研究である。今回餌として測定された有機物と底生動物の安定同位体には較差が多いため、中間に位置する餌料の特定が必要であろう。

1-D-09-4では、地球温暖化がもたらすコアマモへの影響が室内実験に基づいてモデルが構築され、水温上昇と海面上昇という2つの影響について検討された。将来予測として必要な研究であるだけに、これらの変化に伴うコアマモの植生の変化をふくめ、今後の研究の発展が期待される。

（福岡女子大学・人間環境 山田 真知子）